

新潟県小学校教育研究会
会 報

全
会
員
配
布

編集発行：新潟県小学校教育研究会事務局
〒950-0908 新潟市幸西3-3-1(新潟会館2階)
電 話 新潟(025)290-2231
F A X 新潟(025)245-6060
<http://www.niigata-inet.or.jp/k-shoken/>
E-mail k-shoken@niigata-inet.or.jp
印 刷：㈱第一印刷所
電 話 新潟(025)285-7161



基礎・基本の確かな定着を
生み出す実践・研究を

新潟県小学校教育研究会

会 長 山 岸 宏

新学習指導要領全面実施以来、数か月が経ち、各学校では児童に基礎・基本の確かな定着を目指す真剣な取組が進んでいます。個別学習の時間を特設したり、モジュール方式など1時間の学習時間の弾力的な運用を工夫したりと一人一人の子供に行き届いて、かつ、学習の効果を上げるための様々な努力が試みられており、基礎学力向上に対するこれまでにない各学校の息づかいが伝わってきます。

過日、オーストラリアとニュージーランドの教育事情を視察する機会がありました。両国は、先のOEC Dの学力調査で日本を上回り世界でもトップクラスの成果を上げており、どのような教育が行われているのか、大変、興味と関心がありました。参観した四つの学校では、子供たちが一人あるいはグループになってそれぞれの課題に応じた学習に取り組んでいました。なかには、同じ時間に書く学習(国語)と計算の学習(算数)のドリルをする一方で、先生とディスカッションをしている教室もありました。先生は一人です。また、「塔」をテーマにした4年生の総合学習の教室では、新聞紙、ダンボール、絵画、作文、木工などさまざまな方法で3~4人で作品づくりをしていました。教室はどこも落ち着いた雰囲気、教室内の作品からは子供たちの豊かな発想や表現力が伝わってきます。壁に掲示されている作品は細かいところまで丁寧に描かれていて、作品の隅々にまで子供たちの意気込みが感じ取れます。

州の教育担当者の話では、読む力のない子や算数でレベルに達しない子など学習に遅れのある子の指導に力を入れており、早い時期に遅れを取り戻しておかないと学年が進むにつれてついて行けなくなることから、教師の指導技術のトレーニングも含めて特別予算を組んでいるとのことでした。これらのことは両国の高い学力水準を解明するものにならないかもしれませんが、基礎・基本の確かな定着を目指す取組が心に強く残りました。

冒頭に述べたように、各学校では基礎学力の向上に向け様々な実践が始まっています。この中から確かな前進につながる指導改善を是非とも生み出したいものです。その意味でも、今秋の3校の「総合学習」研究発表会の成果を大いに期待しています。